

Ⅱ. 漁ろう操船に関する知識

4. 漁具の固着の際の対応

一般社団法人 大日本水産会
講師：常務理事 松本冬樹

- (1) 漁具等の交錯への対応
- (2) 海底障害物への固着の対応
- (3) ロープの破断の危険性

(1) 漁具等の交錯 への対応

- ✓ 好漁場では、自国、または自国船以外の漁船がさまざまな漁法で操業しており、漁具の設置位置などの情報把握も困難なため、予期せぬ漁具交錯が発生することがあります。
- まぐろはえ縄漁場などでは、特に自国船以外の漁船の動静把握が難しく、漁具等の交錯に注意が必要です。
- 漁具等が交錯した場合は、推進器や舵への巻き込みを防止するため、自船と他船の漁具の延伸方向・張り具合を確認し、双方の漁具損傷が最少となる交錯解消作業が行えるように、本船の船首方位、対水速力の制御を行います。
- 交錯が解消できない場合、自船の漁具を切断します。やむを得ず相手漁具を切断する場合は、漁具を紛失することの無いように、必ず結び直しを行なってください。

(2) 海底障害物への 固着の対応

- ✓ 底びき網漁業において、海底障害物に漁具が固着すると、使用しているワイヤーの急激な張力上昇を引き起こし、強いてはワイヤーの切断など、重大事故につながる可能性があります。

【対策】

- 曳網中は、ワープの状態、ワープ張力、船速の変化などに常に注意を払い、漁具監視装置等を活用してオッターボード間隔、網口高さ、魚群探知機によって海底の状態を監視します。
- 海底に障害物が事前に発見された場合、船速の増速とトロールウィンチによるワイヤー巻き込みの併用で、速やかに漁網を離底させる方法が有効です。
- 張力が急上昇した場合は、直ちに船速を減速するとともにワープ繰り出しを行い、張力の上昇を止めます。

固着解消の基本手順（※）

- ① 船が停止したらワープの進出を止め、機関停止（クラッチオフ）
- ② ワープや漁具が船底方向に吸い込まれて、推進器や舵に絡まらないように、ゆっくりワープを巻込みながら障害物の真上まで微速で移動
- ③ 固着地点の直上付近で取り外し作業を開始

※ 船尾トロール漁業入門(P.92) 津田初二中谷三男
1981年9月成山堂書店

(3) ロープの破断の 危険性

✓ 漁ろう作業では多種多様なロープ類を使用しますが、以下の要因により重大事故を引き起こす可能性があります。

- ロープ類の劣化の見落とし
- ロープの安全荷重を超える張力の過負荷
- ロープの摩擦による擦れ

✓ 作業中にロープやワイヤーが破断すると、以下の事故が生じる恐れがあります。

- 漁具の亡失や重量物の落下
- 切断されたロープの反動による人的被害

- ✓ 過去には、破断したロープに作業員が跳ね飛ばされて海中へ転落し死亡、または滑車落下による死亡事故などが報告されています。
- ✓ 特に漁具の操作時には、ワイヤーやロープには大きな張力がかかっており、破断しない場合でも、ワイヤーに跳ねられ、重傷を負う事故も発生しています。
- ✓ ワイヤーやロープと設備間に身体や手指を挟まれるなどの危険もあります。張力がかかっているロープやワイヤーを跨がないなど、乗船時には注意が必要です。
- ✓ ロープの破断による事故を防ぐためには、漁具の適正な利用や管理、操業前後の点検を怠らないことが重要です。
- ✓ また、操業中は、ロープ類に張力をかける場合は張力の限界（安全荷重）を超えないよう注意すること、緊張しているロープにはできる限り近づかないこと、破断の恐れがある場合は作業を中止する等の対応が必要です。

A person wearing a cap and a life vest is standing on the deck of a boat, leaning over the railing. The background shows the ocean and a cloudy sky. The entire image has a blue color cast.

以上で講習は終了です。

お疲れ様でした。